東京・江東で計画の「赤ちゃんポスト」、親も一時保護へ

#東京 #地域 #関東

2023/5/31 2:00 [有料会員限定]

東京都江東区の民間団体が、乳幼児に加えて親も受け入れる「赤ちゃんポスト」の整備計画を進めている。子どもと一緒に過ごせるようにすることで、身体の保護とともにカウンセリングなどを通じて親が養育する可能性を探る方針だ。

計画するのは医療法人社団モルゲンロート（東京・江東）。2024年秋の開設をめざしている。

親が育てられない乳幼児を匿名でも受け入れる「赤ちゃんポスト」は、国内では慈恵病院（熊本市）が医療機関として唯一運営している。07年の設置から170人の乳幼児を受け入れている。

モルゲンロートは望まない妊娠などで生まれた乳幼児を預かるほか、訪れた親もできるだけ保護する。受け入れ期間は2週間程度を想定しており、子どもと一緒に生活する間に相談員がカウンセリングなどを行い、親による養育につなげられるよう支援する。

施設は新設する産婦人科診療所に併設する。都心部のアクセス環境などから、慈恵病院を上回る年間50人の乳幼児受け入れを想定している。親が自ら育てると決断した場合は行政などの支援サービスにつなげ、養育を断念したケースでは子育て支援を行うNPO法人と連携して特別養子縁組などを進める。

モルゲンロートの小暮裕之理事長は「赤ちゃんだけでも受け入れるが、親子で休める場所を提供したい」と話す。乳幼児が虐待などで命を落とすケースは後を絶たない。厚生労働省の調査では20年度に心中以外の虐待で死亡した子ども49人のうち、0歳児が65%を占めた。

乳幼児を遺棄したとして、母親が逮捕される事件も続いている。社会的な孤立や育児ストレスも要因に指摘され、小暮理事長は「亡くなる子を限りなくゼロに近づけたい」としている。

今後は具体的な設置場所を選定し、都や区に「赤ちゃんポスト」の機能などを備えた産婦人科診療所の開設などを申請する。

円滑な運営には行政の支援も必要となる。4月の江東区長選挙では、赤ちゃんポスト構想の全面バックアップを政策に掲げた木村弥生区長が当選した。就任後の記者会見では「関係者とともに話を進めたい」と述べた。

【関連記事】

・新江東区長、赤ちゃんポスト「関係者と話進めたい」

・東京・江東区長選挙、保守分裂を元衆院議員が制す